

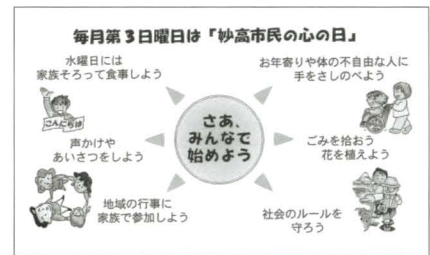
実践記録

106

シリーズ

雪国で培ったゆずり合う心・助け合う心「妙高市民の心」を受け継ぎ広めよう

妙高市公民館係長 望月 志伸



1 「妙高市民の心」推進事業の趣旨

この地に暮らすことに、心から幸せを実感できるまちを目指し、今年度から「妙高市民の心」推進事業を立ち上げました。

これは、家庭・地域・学校・職場が一体となって、思いやりや感謝の気持ちなど、この地に脈々と受け継がれてきた豊かな心を継承し、広める活動を市民運動として、全市民で取り組んでいこうとするものです。

2 事業の必要性及び背景

戦後の日本は、目覚ましい経済成長により、物質的な豊かさや便利さなどをもたらしてきました。その反面、「金・物」を重視する考えが中心になり、他人を思いやる気持ちなど「心」の豊かさを大切にすることが軽視されて、社会に歪をもたらしてきています。

そのため近年では、自己中心的な考えによるマナーの低下や、さらには親子間や家族間での痛ましい事件が発生しており、学校では「いじめ」が問題となっています。

こうしたことから将来私たちが、安心して生活していくという基盤すら揺らぎつつあります。

雪国妙高には、昔から近所と助け合ったり、道を譲り合ったりして、普段の生活の中に、「譲り合う心」や「助け合う心」が、確かに根付いていました。

今、私たちに必要なことは、この地域に受け継がれてきた「心」を思い起こし、「生命を尊ぶ心」「絆を大切にすること」「思いやりの心」などを育み広めていくことではないかと考えています。

そのためには、まず範となるべき大人が変わらなければ、その成果は上がりません。

この事業の趣旨を市民一人ひとりが十分理解し、協力して行動を起こすことが必要です。

3 本年度の取り組み

(1) 「妙高市の心の日」「家族そろって食事デー」

「妙高市民の心」の活動を市民の皆様から取り組んでいただくため、毎月第3日曜日を「妙高市民の心の日」、毎週水曜日を「家族そろって食事デー」と設定しました。

地縁社会が希薄化していると言われる昨今、「心の日」に、家族そろって地域の行事やボランティア活動に参加し、家族と地域の絆を深めるとともに、地域の教育力の向上を目指しています。

「家族そろって食事デー」は、各家庭で食事をしながら、家族で一日の出来事などを話し合うことで、家族の絆を深めていくことを目指し、学校の部活が休みの水曜日に設定しました。

(2) 6つの推進項目

具体的な推進項目として、次の6つを掲げています。

- ①水曜日には家族そろって食事をしよう
- ②声かけやあいさつをしよう
- ③地域の行事に家族で参加しよう
- ④社会のルールを守ろう
- ⑤ゴミを拾おう 花を植えよう
- ⑥お年寄りや体の不自由な人に手をさしのべよう

☆「妙高市民の心」カレンダーの作製・配布

全市民に啓発する手段として、「心の日」や「家族そろって食事デー」と、6つの行動目標を示した「妙高市民の心カレンダー」を作製しました。各家庭に掲示していただくため、小中学校から各学校行事や行政のイベントなどを載せ、また、子どもから募集した「あいさつ標語」の優秀作品と、作者の顔写真を載せました。これを小学校区毎に作製し、全戸に配布しました。

☆「妙高市民の心」推進検討委員会・推進実行委員会の設置

この事業を市民運動として発展させるため、各分野の代表からなる「妙高市民の心」推進検討委員会と実行委員会を立ち上げ、事業の方向性や進め方について検討いただきました。

☆「妙高市民の心」推進応援事業所の登録

検討委員会の中で、「一日の内の大部分を職場で過ごしているため、早く帰るには「事業所の協力が不可欠である。」と、ご意見をいただき、各事業所を訪問し、「ノー残業デー」の設定や、地域の行事がある場合に、休暇を取りやすくする支援と、事業所としても環境美化などの奉仕活動をするなどお願いしました。また、「妙高市民の心」を心がけた取り組みを行ってもらうため、「妙高市民の心推進応援事業所」を募集し、応募いただいた事業所には、「妙高市民の心推進応援事業所登録認定証」を交付するとともに、毎月の広報で紹介しています。

☆「妙高市民の心」推進大会の開催

10月20日に、「妙高市民の心」推進大会を開催し、法隆寺管長の 大野玄妙氏を迎え、「聖徳太子の心～平和國家への道～」と題して、講演をいただきました。

4 今後の方向

この事業は、手探りの状況からスタートしたばかりであり、今は啓発活動を中心に行っています。結果が直ぐに表れにくい取り組みであり、粘り強く取り組まなければならないと考えています。

あらゆる機会をとおして「妙高市民の心」推進事業の趣旨を、伝えていきたいと考えています。